国語科において、自分の考えをしっくりくる言葉で表現できる児童の育成

―スリーステップによる語彙の獲得・活用の指導と交流から考えを構築する授業展開の工夫を通して―

前橋市立元総社南小学校　佐股　由季

Ⅰ　主題設定の理由

文部科学省「小中学校学習指導要領等の改訂のポイント」では、言語能力を確実に育成する上で「発達の段階に応じた語彙の確実な習得」が挙げられており、語彙力の育成が重要であるとされている。「前橋市各教科等指導の努力点（国語科）」では、「児童生徒が自らの言葉によって考えを広げ深めることのできるような教師の働きかけが必要」とされており、自分の考えを適切に表現するためにも、語彙を豊かにする指導が不可欠であると言える。

本学級の児童の文章を見ると、「よかった」「すごい」など気持ちを表す言葉が似通っており、語彙が乏しいように感じる。読み手を意識して自分の意図が伝わるように書くことに対する意識が十分でないようにも感じる。また、これまで自分の考えを書いて発表する機会が多く、書くことに慣れているものの、「書きたい内容が思いつかない」「何を書いてよいか分からない」など書く内容や書きぶりが思い浮かばない児童もいる。これまでの自身の実践では、児童が日常的に活用する言葉への関心を高める活動や、児童が覚えた言葉を実際に活用できるようにする場の確保が不十分であった。

児童の語彙の乏しさを改善するには、日常的にたくさんの語句を「知る」機会を充実させることが肝要である。「知る」ことで増やした語彙の中の語句を活用できるようにするためには、言葉に関する知識を「広げる」こと、繰り返し「使う」ことに児童が取り組むことが必要であり、これら三つの活動（以下、スリーステップ）を積み重ねることで児童の語感が磨かれ、自分の考えをしっくりくる言葉で表現できるようになるものと考える。本研究では、「しっくりくる言葉」を、「伝える相手や目的、場面や状況に応じて、言葉を選びながら、自分の考えに違和感なく合う言葉」とする。

書く内容や書きぶりが思い浮かばない児童に対しては、書けない不安を軽減する必要がある。音声での意見交流は比較的気軽に自由に話すことができる。また、友達の発言から考え方や言葉での表し方に気付いたり、音声化することで自分なりの表し方を見付けたりすることもできる。交流の時間が初めに設定されていると、児童は自信をもって考えを形成し、自分の思いをしっくりくる言葉を用いて表現することができるものと考える。

以上のことから、国語科において、スリーステップによる語彙の獲得・活用の指導と交流を通して考えを構築する授業展開の工夫を行うことで、児童が語彙を増やし、自分の考えをしっくりくる言葉で表現できるようになると考え、本主題を設定した。

Ⅱ　研究のねらい

国語科において、自分の考えをしっくりくる言葉で表現できる児童の育成を目指し、スリーステップによる語彙の獲得・活用の指導と交流から考えを構築する授業展開の工夫を行うことによる有効性を、実践を通して明らかにする。

Ⅲ　研究の見通し

小学校国語科学習指導において、以下の二つの手立てを講じることで、自分の考えをしっくりくる言葉で表現できる児童を育成することができるであろう。

１　手立て１【スリーステップによる語彙の獲得・活用の指導】

本研究ではスリーステップを、以下のように行う。

「知る」活動　…教科書巻末「言葉の宝箱」を用いた語句と出会い、意味調べを行う。

「広げる」活動…出会った語句についてクラウド型ソフトウェア（以下、オクリンク）を用いて、似たような意味のものを分類整理しながら児童一人一人が「気持ち言葉集（以下、言葉集）」を作成する。

「使う」活動　…〈朝学習や家庭学習〉「言葉集」の語句を用いて短文を作り、その語句を選んだ理由を書く「言葉ノート」に繰り返し取り組む。
〈各教科等〉「言葉集」を活用する言語活動に取り組む。

２　手立て２【交流から考えを構築する授業展開の工夫】

授業において、対話による交流を通して、友達と互いの意見とその根拠について伝え合ったり質問し合ったりしながら、自分の考えを形成するための「練り上げ時間」を確保する。「練り上げ時間」を踏まえて、自分の考えを精査・改善し、文字に起こしながら考えを構築する「吟味時間」を設定する。

Ⅳ　実践内容

本研究では、第６学年（35 名）に対して、実践を行った。手立て１については、７月に国語科の授業にて指導し、以後継続して常時指導を行った。手立て２については、10月に国語科「作品の世界をとらえ自分の考えを書こう」において授業実践を行った。

１　手立て１　【スリーステップによる語彙の獲得・活用の指導】

(1)　実践の概要

「知る」「広げる」活動では、言葉の学習として心情を表す語句について、児童は意味調べを行った。語句とその意味を紙のカードに書き出し、気持ちが「上がる」「下がる」「〇〇シリーズ」のように分類・整理を行った（図１）。その後、それらをオクリンク上でカードにして、「言葉集」を作成した。常時指導として新たな語句に出会う度に「言葉集」に加えた（図２及び p. 81 資料１参照）。

図１　語句の分類
（紙ベース）

図２　語句カードと分類
（データベース）

「使う」活動では、「言葉ノート」に繰り返し取り組んだ。（p. 81 資料２参照）。各教科等の言語活動でも「言葉集」を活用して、しっくりくる言葉を選びながら文章を書くよう意識付けた。国語科の授業においては、「やまなし」の作者の独特な叙述を探し、選んだ理由や、叙述から感じた思いを「言葉集」から選び表現する活動を行った。

(2)　結果と考察

「知る」「広げる」活動では、「言葉の宝箱」を用いたことで、今まで以上に新たな語句に出会う機会が増え、語彙の量的な確保につながった。多くの児童が端末を活用し「言

葉集」の作成に意欲的に取り組んでいた（図３）。また、自分が分類したシリーズの中に「より○○」「少し○○」のように、伝わる思いの強弱を基にカードを並べる児童もおり、語句を自分のものとして使えるようにしようとする意識の芽生えを感じた（図４）。しかし、極端に語彙が少ない児童や分類に誤りのある児童も見られたので、個に応じた支援や、グループや全体で、語彙の数や分類について確認する必要があると感じた。

図３　語句を選ぶ様子

図４　児童が作成した言葉集（思いの強弱を考え、順序立てて並べたもの）

朝学習や家庭学習での「使う」活動においては、９割近い児童が正確に語句の意味を理解し、意味の通じる短文を「言葉ノート」に書くことができた。また、回数を重ねる毎に、他の言葉と比べて、選んだ語句の方がしっくりくると判断したという理由もより具体的に記述できるようになっていった。一方、理由を説明することへの難しさを感じる児童も一定数いた。テーマをより明確にした「言葉ノート」の作成や、理由の表し方に対する個別の支援が必要であると考える。

選んだ叙述	「かぷかぷ笑った」
理由	普通なら、ニコニコやうれしそうにとかの言葉を使うけど、賢治はかぷかぷ笑ったよという表現にしていて、ぼくはニコニコよりもかぷかぷの方が子供らしいいい笑い方の表現になると思った。
言葉集	かわいらしい

図５　児童のオクリンクカード

国語科の実践では保護者に「やまなし」の魅力を伝えるブックトークに取り組んだ。児童は、作者宮沢賢治らしい独特な叙述を選び、選んだ理由を文章にまとめた。その中で、選んだ叙述に対する自分の思いを表すために「言葉集」の中から語句を選んでいた（図５）。また、しっくりくる言葉がないため、Web 検索し「言葉集」に追加した児童もいた。「表現が６年生らしくなった」「『関心をもった』『心が温まりました』等、様々な表現を用いていたことが印象的でした」など、児童の表現からその成長ぶりを保護者にも感じてもらうことができた。実践後、修学旅行記や卒業文集を書く際に、８割以上の児童の文章の中に「言葉集」から選んだ語句が入っていた（p.82 資料４参照）。

「知る」活動が自分の思いを表すための語彙の量的な確保につながり、「広げる」活動が活用を想定した語句の分類や整理につながった。「使う」活動では、「言葉集」を繰り返し活用したことで、教師が設定した場面以外でも、より相手に自分の考えや思いが伝わる語句を使おうとする児童の意識の高まりを感じた。

このことから、スリーステップによる指導を行うことは、児童の語彙が量的・質的に充実し、しっくりくる言葉を選び用いることの一助になったと考える。

図６　練り上げ時間（上）と吟味時間（下）

２　手立て２【交流から考えを構築する授業展開の工夫】

(1)　実践の概要

国語科「作品の世界をとらえ自分の考えを書こう」において、自分が感じた「やまなし」の魅力についてブックトークで保護者に伝えるという言語活動に取り組んだ。授業では、作品の中から宮沢賢治らしい叙述を探し、なぜその叙述が「賢治らしい」と感じたのか、その理由と、叙述に対して感じたことを文章にまとめるという言語活動を行った。学級全体で、選んだ叙述について交流の仕方を提示した後、グループ交流する「練り上げ時間」を設定した。その際、聞き手には、話し手に対して質問や共感といった反応を示すよ

う促した。その後、「吟味時間」を設定し、「練り上げ時間」でのやり取りを踏まえて、個人で文章にまとめる時間とした（前頁図６）。

(2) 結果と考察

「練り上げ時間」では、「賢治らしい」叙述について、「なぜその言葉を選んだの。」「〇〇さんなら、どうやって表現する。」「どんなイメージをもった。」など質問し合うことによって、発表者が言葉を選びながら答えたり、「こういうことかな。」と聞き役の児童がサポートしたりする姿が見られた（表１波線部）。

「吟味時間」では、「賢治らしい叙述」と「その叙述を選んだ理由」を全員の児童が書くことができた。「練り上げ時間」での交流を基に、吟味時間でより詳しく書く児童もいた（図７）。これまで個人で意見を書いてから交流するという展開であったが、時間内に書き終えられず、交流ができない児童が一定数いたことから、この授業展開の工夫は効果的であったと考える。また、初発の感想を、表現に対し「面白い」「いい」「不思議」と書く児童が多かったが、ブックトークの際に児童が選んだ言葉は、「興味深い」「意外」「関心を持つ」「奇妙」が多く、「心に染みる」「かわいらしい」「なごむ」「引きつけられる」「愉快」などを選ぶ児童もいた。単元の振り返りには、「今日はしっくりくる言葉がすぐに選べた」「納得できる言葉が見つかった」といった記述が多く見られ、児童が語彙を獲得し、活用できるようになったことがうかがえる。

このことから、「練り上げ時間」後の「吟味時間」という流れは、自分の考えがまとめられない児童にとって、友達と補い合いながら考えを構築しスムーズに文章を書くことができるものと考えられる。また、似通った表現が減ったことも、交流をきっかけに自分の考えをより明確にできたことが要因の一つであると考えられる。

表1　Ａ児のグループでの会話（練り上げ時間）

Ａ児	「ラムネの瓶の月光」のところで、理由は、他にも例えはあったと思うけど、違う方向の例え使っていて、面白いと思った。
Ｂ児	Ａさんだったら、ラムネの瓶じゃなくて、何て使う？
Ａ児	なんだろう･･･コップかな。ガラスのコップとか。
Ｃ児	反射？
Ａ児	そう、反射。月光だから、光が反射してるの。
Ｄ児	ラムネの瓶ってどういうものを想像したの？
Ａ児	うんと･･･ラムネの瓶の形って、何かこういうの（身振り）。ぐにゃぐにゃっていろんな光の反射の仕方とかあるかなって。
Ｂ児とＣ児	ふむふむ。うんうん。なるほど。

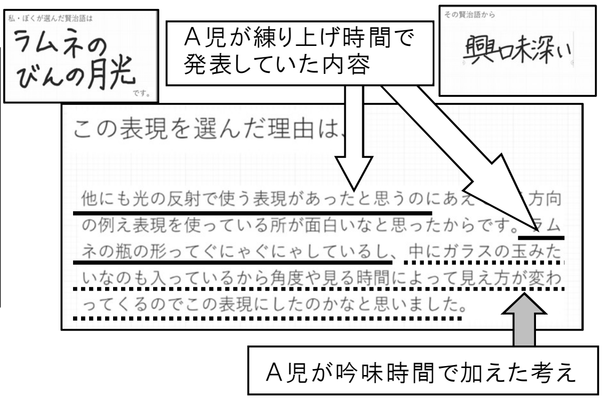


図7　Ａ児が作成したカード（吟味時間）

Ⅴ　研究のまとめ

１　研究の成果

〇スリーステップを繰り返した結果、獲得した語彙を積極的に活用する児童の姿が見られた。また、自分の考えを表す際に用いる語彙がより具体化し、表現に幅ができた。

〇交流から考えをもつ流れで授業を行った結果、あいまいで不確かだった自分の考えを、交流を通して明確にする児童の姿が見られた。また、似通った表現ではなく、自分なりの言葉でまとめる児童が増えた。

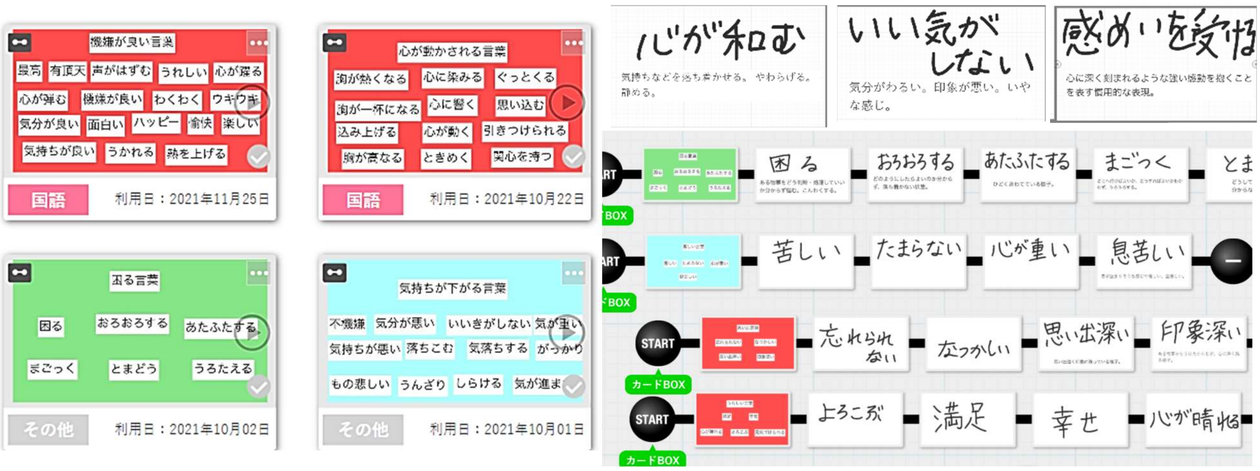
２　今後の課題

〇学習者用端末を用いた「言葉集」の作成に時間を要することへの改善が必要である。

〇分類や情報機器の操作等、学習の進捗状況に応じた個への支援の必要性を感じた。

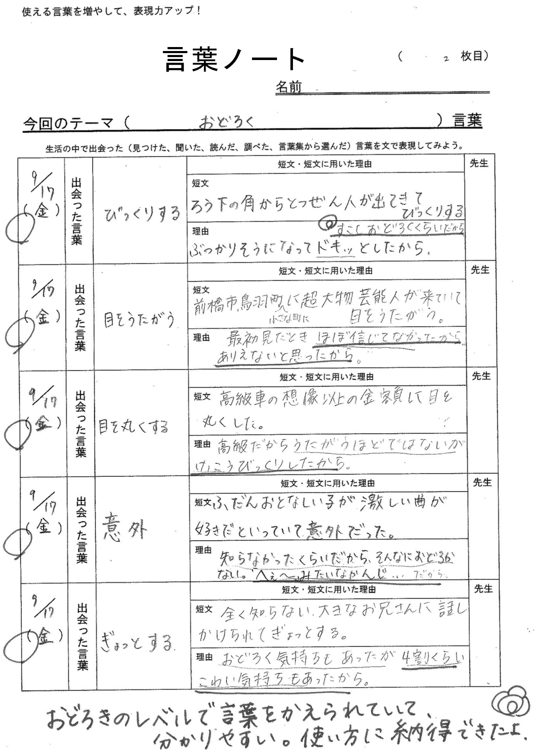
〇選んだ語句へのこだわりを児童が明確に説明できる段階まで到達できなかった。

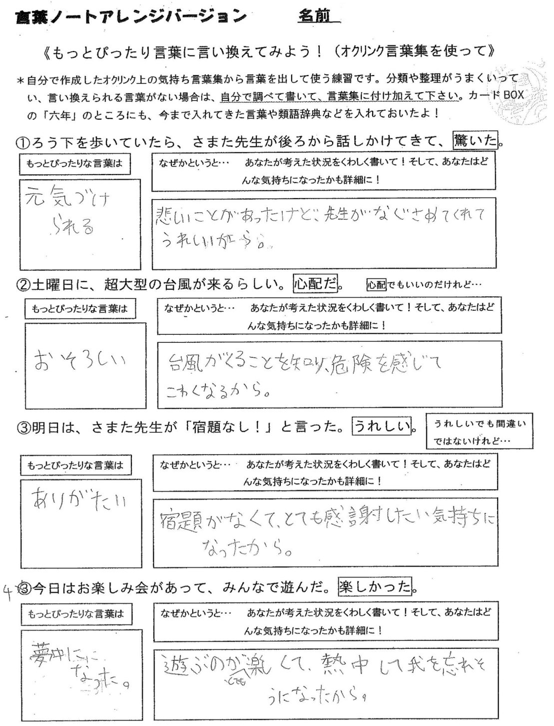
【資料１】学習者用端末の「言葉集」（データベース）



【資料２】「言葉ノート」

・〇〇言葉や、マーチング練習や遊園地など、テーマを設定し、短文を作り、選んだ語彙に対する理由を記述する。
・教師が提示した短文中の語句を、自分の心情に合うものにし、そう表現した理由について記述する。
・一つの語句で複数の短文を作り、それぞれの短文で伝えたいことが伝わるか考える。

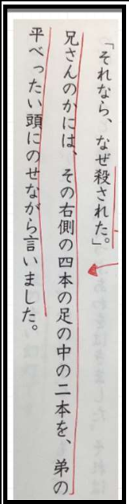




【資料３】国語の実践授業で児童が考えをまとめたカード

①児童が選んだ独特な叙述	② 叙述を選んだ理由	③ 叙述に対する自分の思い
私・ぼくが選んだ賢治語は 日光の黄金は、夢のように水の中に降ってきました。	この表現を選んだ理由は、 普通に、「水の中に降って来ました」といえば、「何か降って来たんだな」と思うけど、「夢のように降って来ました」だと、普通のより多い量が降って来たんだろうなと思ったから。 です。	その賢治語から 興味深い おもしろいと強く感じる。 と思いました。

（資料３の続き）


「それなら、なぜ殺された。」
兄さんのかには、その右側の四本の足の中の二本を、弟の
平べったい頭にのせながら言いました。

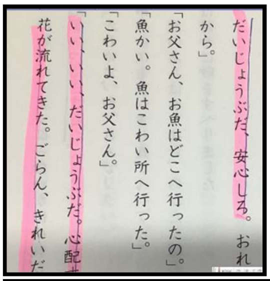
←① 児童が選んだ独特な叙述

この表現を選んだ理由は、

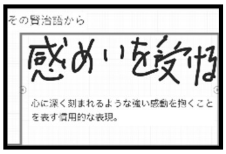
「死んだ」「殺された」と言われて怖がっているであろう弟のカニを気遣うお兄さんカニの優しさが、賢治らしいと思ったからです。

↑② 叙述を選んだ理由

↑③ 叙述に対する自分の思い


だいじょうぶだ、安心しろ。おれ
から。」
「お父さん、お魚はどこへ行ったの。」
「魚かい。魚はこわい所へ行った。」
「こわいよ、お父さん。」
「いい、いい、だいじょうぶだ。心配す
花が流れてきた。ごらん、きれいだ

←① 児童が選んだ独特な叙述



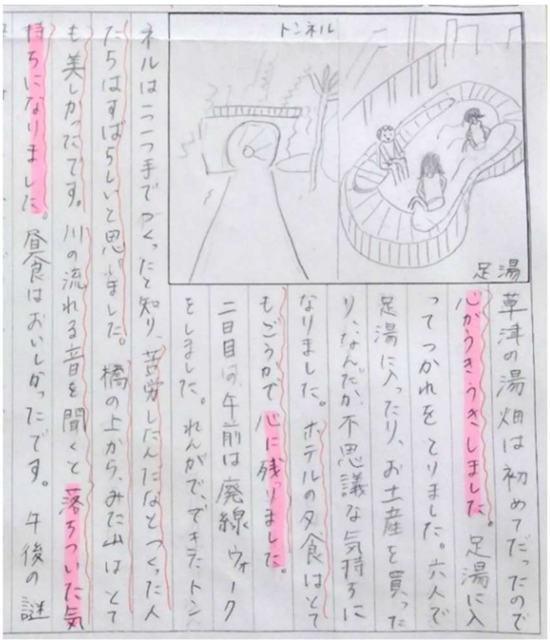
↑③ 叙述に対する自分の思い

この表現を選んだ理由は、

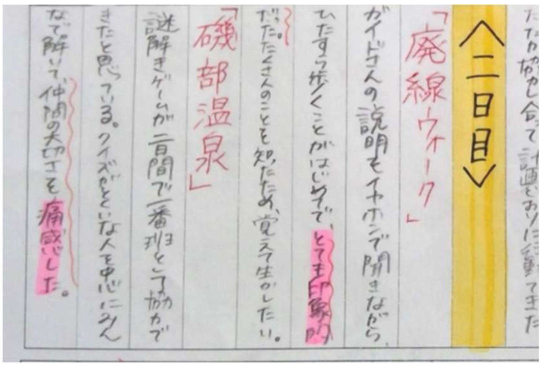
「雨ニモ負ケズ」にも「南に死にそうな人あれば行って怖がらなくても良いと言い」という表現があって賢治は存在するものを大切にするから安心させる表現が多いのかな、と思って、賢治の優しさに感銘を受けたから。

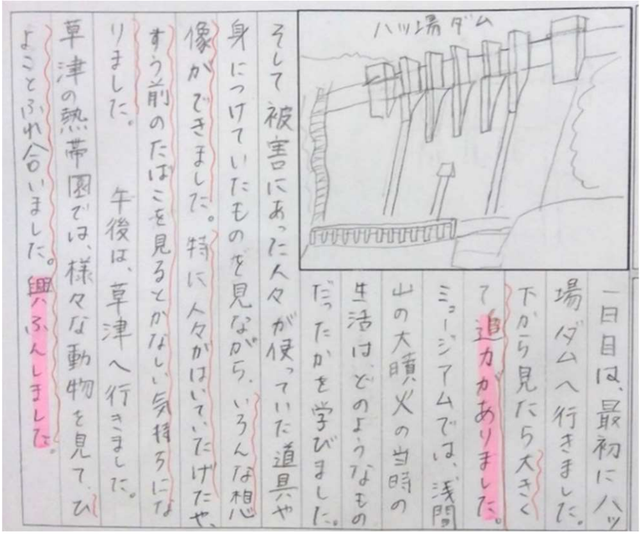
↑② 叙述を選んだ理由

【資料４】修学旅行記

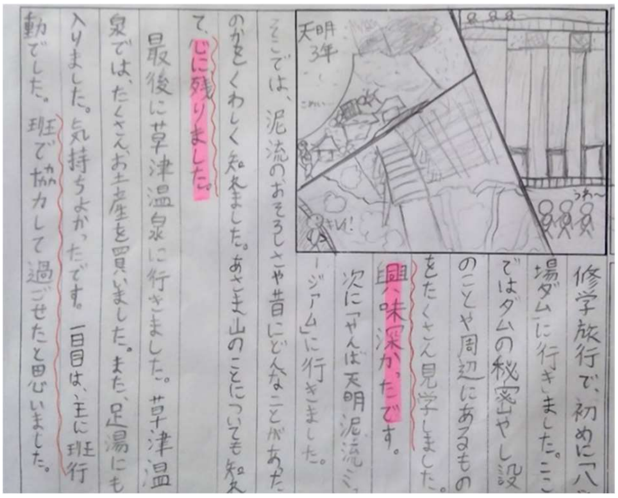


草津の湯畑は初めてだったので心がうきうきしました。足湯に入ってつかれをとりました。六人で足湯に入ったり、お土産を買ったり、なんだか不思議な気持ちになりました。ホテルの夕食はとてもごうかで心に残りました。
二日目は午前は廃線ウォークをしました。れんがでできたトンネルは一つ一つ手でつくったと知り、苦労したんだなとつくった人たちはすばらしいと思いました。橋の上からみた山はとても美しかったです。川の流れる音を聞くと落ちついた気持ちになりました。昼食はおいしかったです。午後の謎


たなかなか会って計画どおりに行動できた
〈二日目〉
「廃線ウォーク」
ガイドさんの説明をイヤホンで聞きながらひたすら歩くことがはじめてで、とても印象的だった。たくさんのことを知ったため、覚えて生かしたい。
「磯部温泉」
謎解きゲームが一時間で一番班と協力できたと思っている。クイズがとくいな人を中心にみんなで解いて仲間の大切さを痛感しました。



一日目は、最初に八ッ場ダムへ行きました。下から見たら大きくて迫力がありました。ミュージアムでは、浅間山の大噴火の当時の生活はどのようなものだったかを学びました。そして被害にあった人々が使っていた道具や身につけていたものを見ながら、いろんな想像ができました。特に人々がはいていたげたや、すう前のたばこを見るとかなしい気持ちになりました。午後は、草津へ行きました。草津の熱帯園では、様々な動物を見て、ひよことふれ合いました。興ふんしました。



修学旅行で、初めに「八ッ場ダム」に行きました。ここではダムの秘密や、し設のことや周辺にあるものをたくさん見学しました。興味深かったです。
次に「やんば天明泥流ミュージアム」に行きました。そこでは、泥流のおそろしさや昔にどんなことがあったのかをくわしく知れました。あさま山のことについても知れて、心に残りました。
最後に草津温泉に行きました。草津温泉では、たくさんお土産を買いました。また、足湯にも入りました。気持ちよかったです。一日目は、主に班行動でした。班で協力して過ごせたと思いました。

〈参考文献〉

群馬県教育委員会（2019）．たくましく生きる力をはぐくむ　はばたく群馬の指導プランⅡ
文部科学省（2004）．これからの時代に求められる国語力について
與崎　優子（2009）．言葉の力を高めるための学習指導の工夫　島尻教育研究所報告書